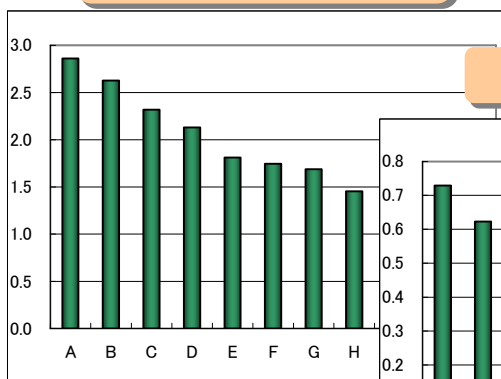


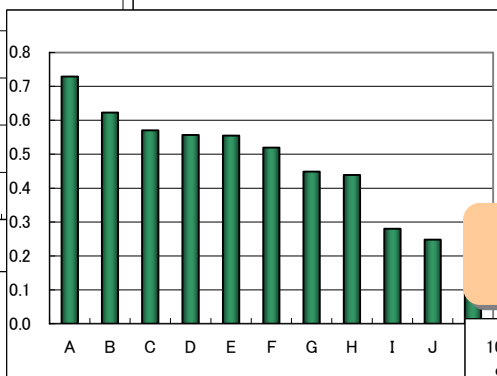
## 入院診療と外来診療の業務量

現在、急性期病院においては、入院診療の方が、一般的にコストパフォーマンスが良いために、外来診療を縮小し、入院診療の比重を重くしようとする動きがあります。しかし、一方で、外来診療でも化学療法などの集中度の高いものもあり、検査を外来に移行する動きもあります。そこで、病院間、診療科等での入／外比（入院と外来の比）というものが、診療パフォーマンスを把握する上で、重要な指標といえます。

外来と入院の1日あたりの診療件数の比

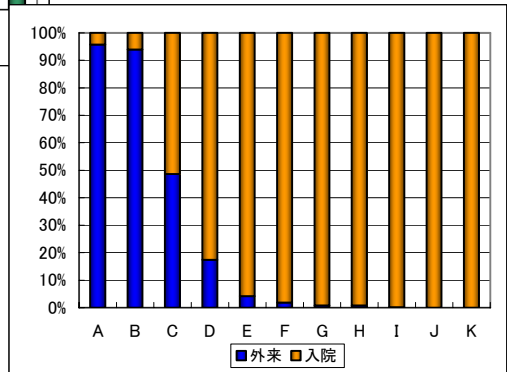


外来と入院の収入の比

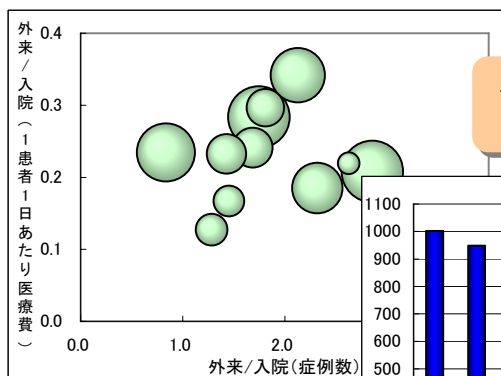


内視鏡的小腸・大腸ポリープ切除術の外来と入院における実施件数は、医療機関によりかなりバラツキがあることがわかる。

内視鏡的小腸・大腸ポリープ切除術  
 外来と入院における実施件数の割合

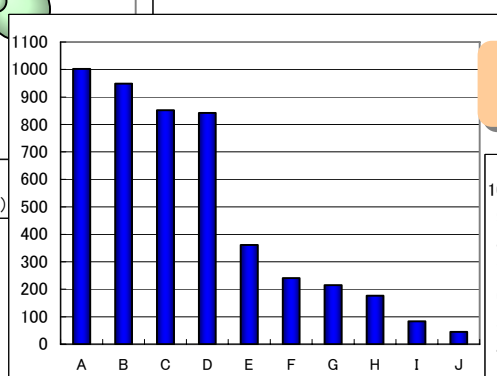


外来／入院(件数)と  
 外来／入院(1患者1日あたりの収入)の関係



※円の大きさは病床数

化学療法の外来と入院の実施件数 (1ヶ月あたり)



放射線療法の外来と入院の実施件数  
 (1ヶ月あたり)

